

私は、出生地が東京ですが、両親の仕事の都合上約2年ごとに中学卒業まで引っ越しを繰り返しました。その間、様々な地域の人々と接する機会に恵まれてきましたが、広大な自然の中で生活する人々と暮らしたいという思いが強くなり、北海道で働くことを決めました。就職先は、興味があった“モノ作り”をしたいという思いから、建設コンサルタントに入社し、以来25年間主に橋梁関連業務に携わっております。

本稿を執筆するにあたり、これまでの仕事を振り返ってみたのですが、本当に色々なことを経験させてもらったと感じています。特に近年印象に残るのは、多発する大規模自然災害の災害復旧対応です。限られた時間の中、多くの方々の協力を得て、無事に災害査定を終了したときの達成感、仕事に対する自信、社会的責任、そしてリスク管理の重要性を強く感じることができました。

現在(R2/4月)、新型コロナウイルスの影響により在宅勤務中ですが、災害対応同様、リスク管理の重要性を改めて痛感しております。このリスク管理について、私も技術士資格を取得する前後から意識するようになりました。最近では、“早期決断の重要性”がニュースでもよく話題になっています。技術士は、様々な場面でリーダーシップの発揮や問題解決の早期手段を決断する機会が多くなります。その“決断の速さ”を培うためには、専門技術はもちろんのこと専門以外の技術取得等幅広い見識と技術力が非常に重要と考えております。私もまだまだ未熟者ですが、社会インフラ整備を通じて北海道の発展に微力ながら貢献できる技術者になれるよう、日々自己研鑽に励んでいきたいと思っております。

北川 貴生(きたがわ たかお)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社 開発調査研究所
構造部



→次号は、亀海貴寛さん(建設部門)

私は、北海道留萌市の出身で、平成8年に大学を卒業し、港湾・漁港の技術職員として採用され、港湾・漁港施設の設計に長く関わってきました。技術士の取得は、職場における職員の技術力向上に向けた取り組みの影響を受けて、平成16年に1次試験を合格した翌年からチャレンジを続け、平成26年によりやく合格することができました。職場では、昨年からは北海道の第3種漁港及び第4種漁港の長寿命化対策を担当し、新たな事業計画策定の準備を開始しています。現在の事業計画は、道内の第3種漁港及び第4種漁港の施設補修を1地区にまとめ平成25年に策定したもので、老朽化が著しい施設の補修を進めてきました。新たな計画では、予防的に施設の補修を行い、各施設のライフサイクルコストを低減するとともに、マネジメントにより費用の平準化にも取り組めるように考えなければなりません。これまで、老朽化が見た目でもわかるような施設を取り上げてきましたが、予防的な補修をいつ、どのように講じれば良いか考えることは非常に難しいのですが、同時に、やりがいも感じています。関係者と連携して、より良い計画が策定できるように頑張ります。さて、現在、働き方改革による超過勤務時間が制限されるなど、仕事の環境が大きく変わっており、仕事の進め方に工夫が必要になりました。私が、これまでの業務で最も貴重だったと思えるのは、被災で壊れた施設の原因を検討したことで、試行錯誤を繰り返し、何日も夜遅くまで作業しました。これを超過勤務せずに終える方法を考えてみたところ、作業を細かく区切ること、作業を分担すること、期限を延ばすことを思い付きました。ただ、自分ひとりで決められる範囲では難しいと感じています。

本山 賢司(もとやま けんじ)

●水産部門(水産土木)

勤務先

国土交通省北海道開発局
農業水産部水産課



→次号は、中谷明浩さん(農業部門)